

## 5/5 『イエスの涙とラザロの復活』(ルカ 24:33~53)

長谷川 望 牧師

マルタとマリアは、イエスに「もし、早くここにきてくださったら兄弟ラザロは死ななくてもよかったのに」と言って嘆き悲しむ。

「\*イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になった。そして、霊に憤りを覚え、心を騒がせて、」(ヨハネ11:33)主イエスのマルタ

「霊の憤り」は、皆が最後の敵である死に飲み込まれ、死に支配されていたからである。そこで、「イエスは涙を流された。」(11:35)愛する者を失った悲しみをご自身のこととして受け入れ、一緒に悲しんでくださった。イエスは私たちの弱さに同情してくださる方であることがよく表れている。聖書でイエスが涙を流されたのは、もう一か所のみ。十字架にかかれる直前にエルサレムを見下ろして、もうすぐローマ軍によって滅ぼされることを予見されたときである。(ルカ 19:41 以下参照)

- \* 主イエスは再び怒りを覚え、挑戦して来る死に対して、ラザロに向かわれた。墓穴をふさいでいる石をとりのけなさい、と言われてマルタはイエスが何をしようとするのかまだわかっていなかった。「信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。」(11:40)これは、すぐ前のイエスとマルタの対話で、イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。(11:25)とイエスが言われたことを指している。「ラザロよ。出て来なさい」(11:43)と大声で叫ばれると、墓に入れられたままの姿でラザロが出てきた。驚きと感動の場面である。
- \* イエス・キリストは公の宣教活動をされる時、「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ1:15)と言われた。キリストは神の御子なので、キリストの言葉やわざはすべて神の国で起こることなのである。死人が復活するなど、地上では理解し難いことであるが、いずれ起こる完成された神の国の前兆、一部を地上で見たのである。
- \* ラザロの復活の意味は、イエスが父なる神と一つであり、死を打ち破る力を持った神であることが証明されたこと。そして、私たちも終わりの日によみがえることの証である。イエス・キリストが再び来られる世の終わりには、「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」(1コリント15:52)

よみがえったラザロはまた死んだであろう。しかしそのラザロも含めてイエスを信じる者はイエスが死なない栄光のからだによみがえられたのと同じからだによみがえることが約束されているのである。その希望をもって生きていきたい。